題法藏寺

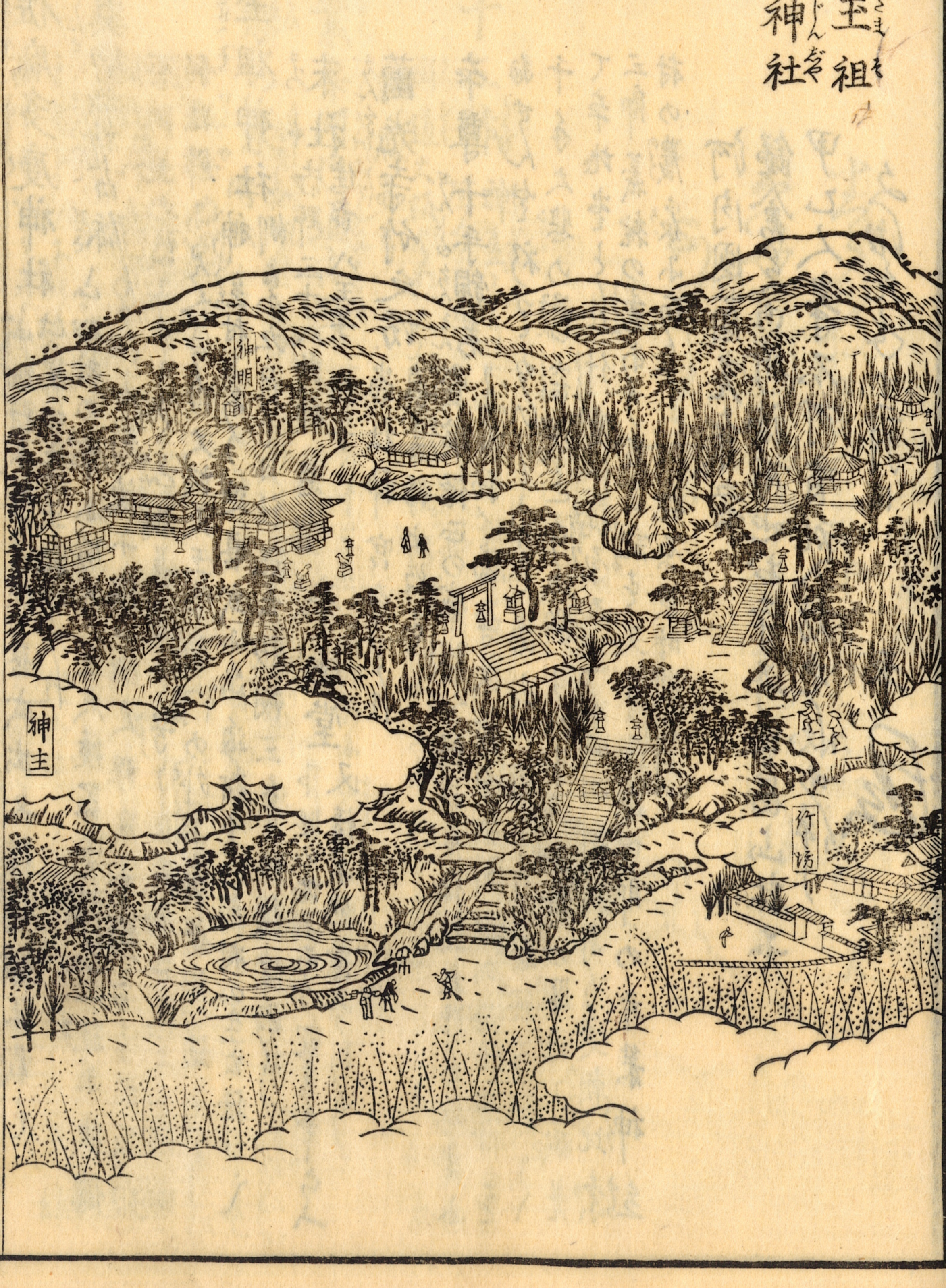
百尺丹梯到上頭　招提搆在薜蘿幽
神仙縮地三千里　雲樹連天十五州
欹枕溪声宵作雨　鈎簾嶽色晝當楼
亦能開士經營力　無復山崩崖壊憂

益洲

高安故城　法藏寺の上方にあり。傳云、天智天皇八年二月高安城を修む。持統天皇元年冬十月高安城に幸す。文武天皇二年八月高安城を修む。又大寶元年八月高安城を廢して其材具を大和河内の民に賜ふと云々。永禄年中松永久秀の塁あり。五老峯これ中にあり。土人鬼が嶽といふ。其上方を四百殿といふ。宮の地なり。

鬼額　相傳ふ、松永の軍勢四百人こゝに籠りし所なり。

千塚　千塚村服部川村及法藏寺山内に多し。大石にて左右に峙て、上にも亦大石を蓋覆し、門闕のごとく、口の廣サ五六尺より壹丈なるもあり。穿て奥の長サ六七間許、中の廣サ方壹丈弐丈なるもあり。高サも亦丈餘にして定らず。小なるもあり。中狹きもあり。此大なるもあり。法藏寺境内にも粗六七十箇所、千塚といはれり。其より山中に甚多し。俗に塚と號す。いにしへは此邊劔の多き所より窟中より陶器あるひは金鐶鉄斧練石の類出る。土人諺に云、大むかし悪毒ありて人民を悩ます。其時こゝに籠りて難を免るとぞ。又の諺には天下旱の時火の雨ふる。此塚穴を掘くこゝに隠れ住しと。それより毎年なる事を傳ふ。詳しといひ又みな塑りにあるがごとし。これあるらしく、ゆゑ詳しく書もみな此塚をもとと云べしといひ傳へ侍るか。



佐麻多度神社　山畑村にあり延喜式出又灌頂幢に載す（此里の生土神とす）

眞德麿古跡　山畑村の中にあり土人傳へいふ一説に俊德あるひハ新德に作る此人姓氏分明ならず或曰百濟王の後にして山畑長者と号し延暦中の人とぞ謡曲弱法師に見えたり大坂天王寺南門の外に眞德街道あり

玉祖神社　神立村にあり延喜式に出　迫村十一箇村の生土神也（例祭九月十日社記云和銅三年の鎮坐なり）

末社　吉野　三十八所神　恩智　**本地堂**　下段の地にあり觀音寺といふ又傳に地藏堂なり
（住吉　八王子　蛭子）

薗光寺竹之坊　當社神宮寺とす（眞言僧止住す）

本尊千手觀音　壹演僧正の感得也僧正ハ弘法大師の孫弟子にして初メ當寺に住給ひ玉祖の神躰を拜せんことを祈誓ありしかバ當山の麓より忽然として千手大悲の尊容現じ玉ふ則これを等正躰の腹内に藏めて本地堂とす什寶に梶原平三景時の制札あり又朝比奈三郎義秋の書あり左に記す又本間孫四郎の弓箭神主村の農家にあり

梶原景時制札曰

河内國薗光寺者
鎌倉之御祈禱所也於寺并田畠山林不
甲乙人等不可有乱入妨之状如件
文治元年十二月日
平（花押）

朝比奈書翰

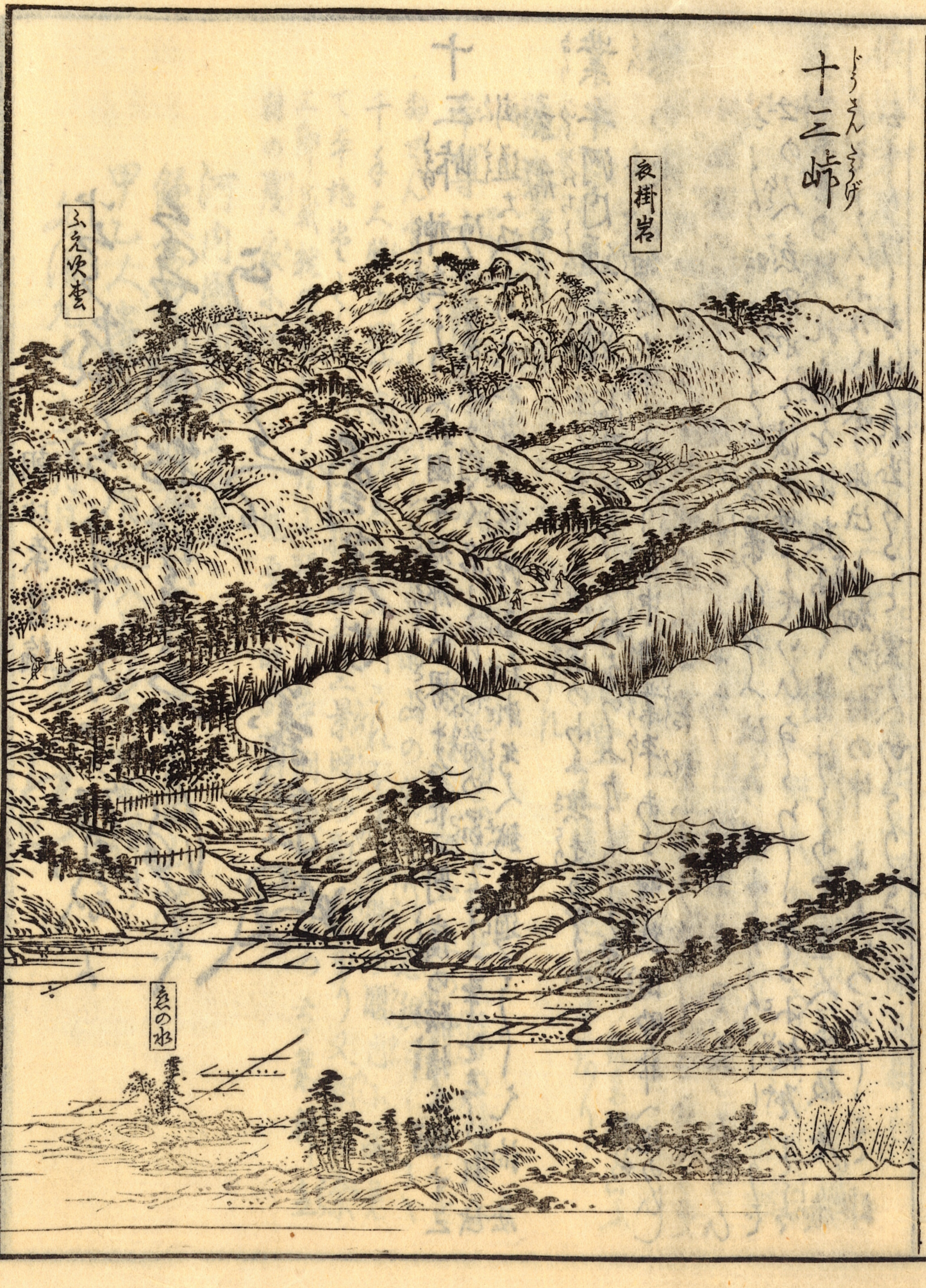
當寺者年來爲祈願人
今度國特殊可致祈禱
之状如件
義秋（花押）
薗光寺

十三峠　神立より大和國平群郡の堺まで廿二町嶺の路傍に塚十三ありこれゆゑに名とす何者の塚といふ事を知らず此街道大坂より大和龍田法隆寺初瀬へ詣る道なれバ泊屋茶店あり

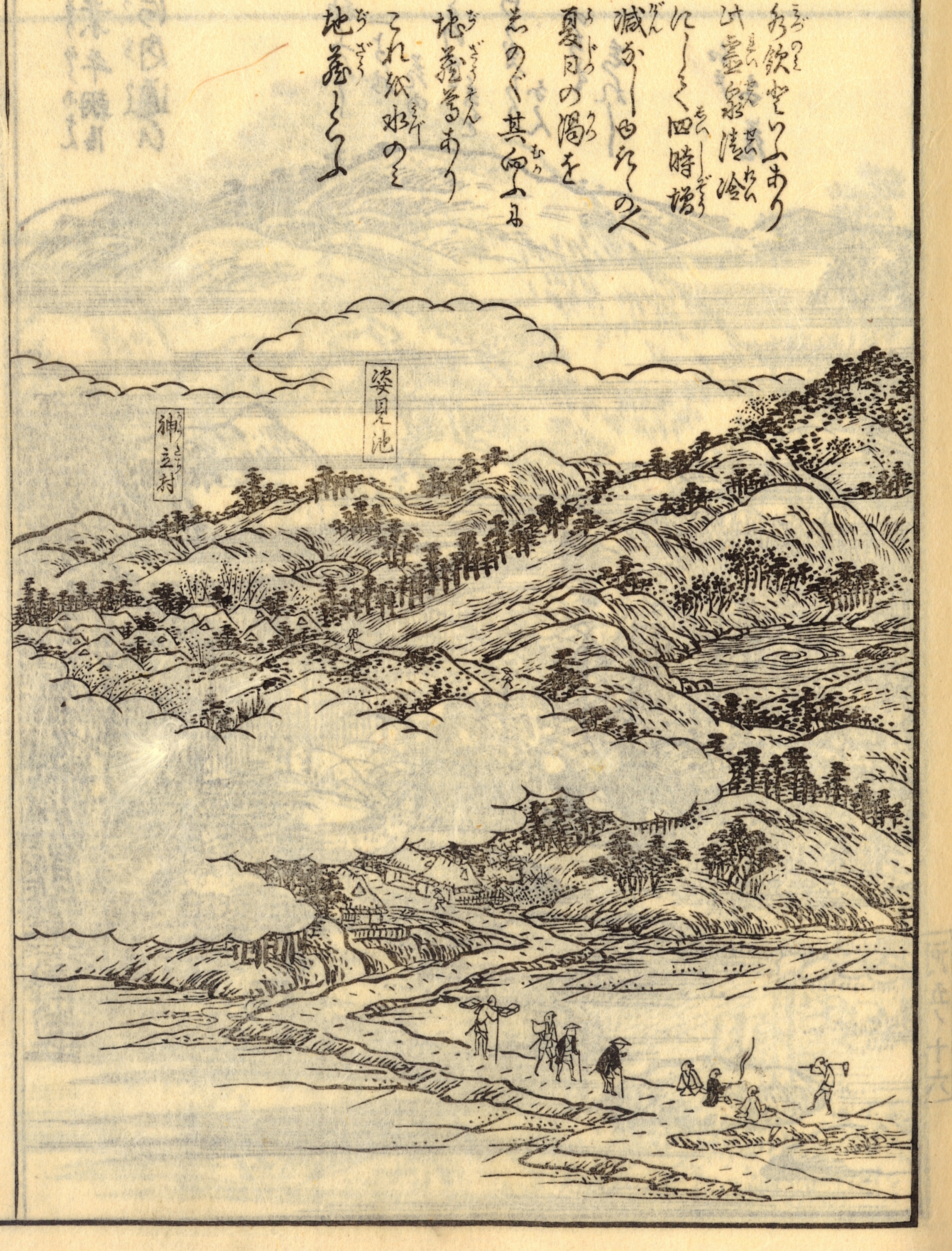
業平河内通古蹟　土人云十三街道の少し北に捷徑あり山路なりこれをいふなりとぞ

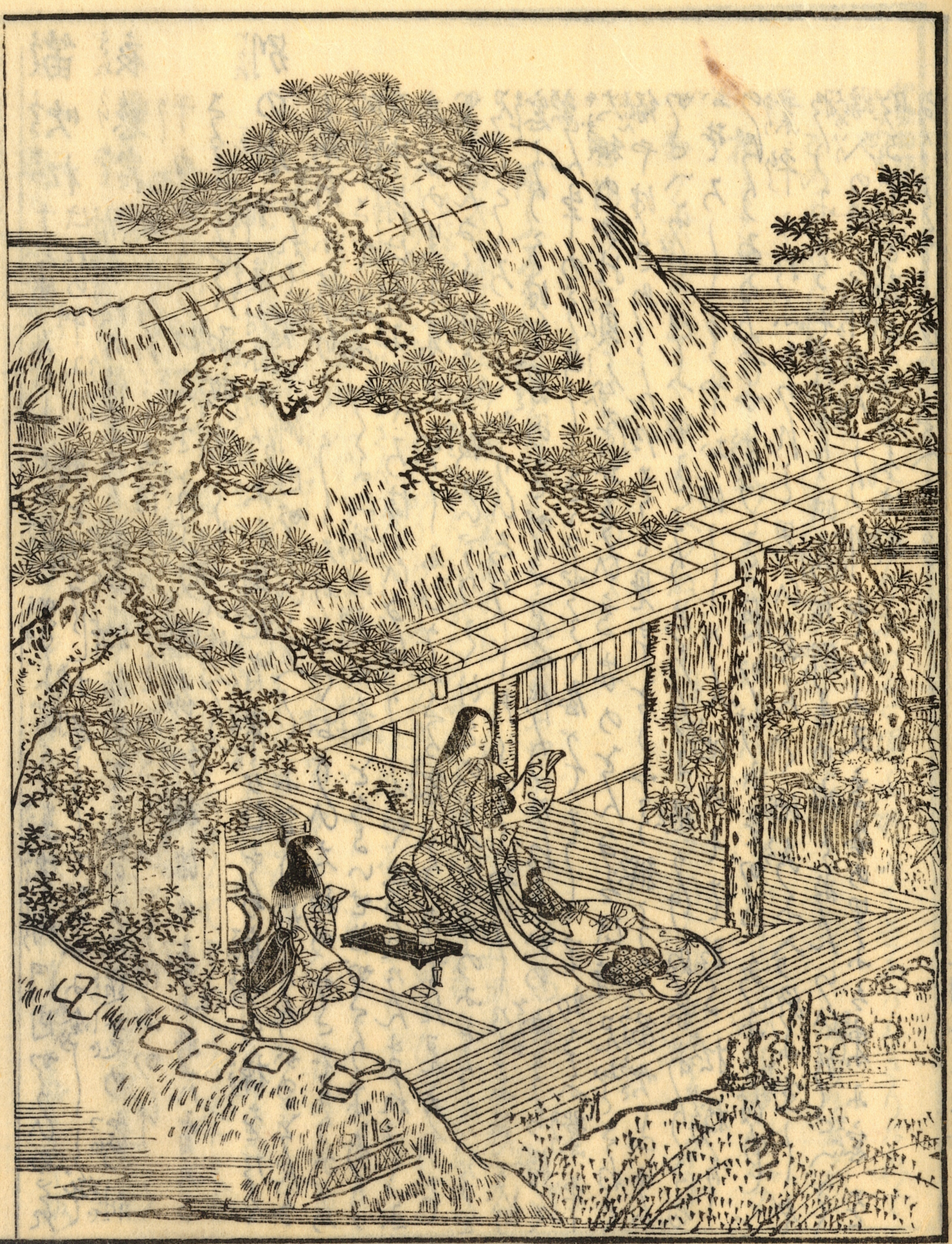
戀の水　山畑村の中にあり在中將業平ある時牧岡明神へ詣のよし時此高安の里を過るに容顔いとうるはしきむすめ見え小板屋の因より硯の水をくみに出しを業平見初メたまひ其より時々かよひ玉ひ此水縁媒せたりしとぞ世の人戀の水と後の世中までいひならはせる小板屋とて業平の新妻を小板にて葺けるにや里人小板屋姫とぞよびける今に此山畑の村の中にみめうるはしき女のおほく生れ出ると里人かたりき

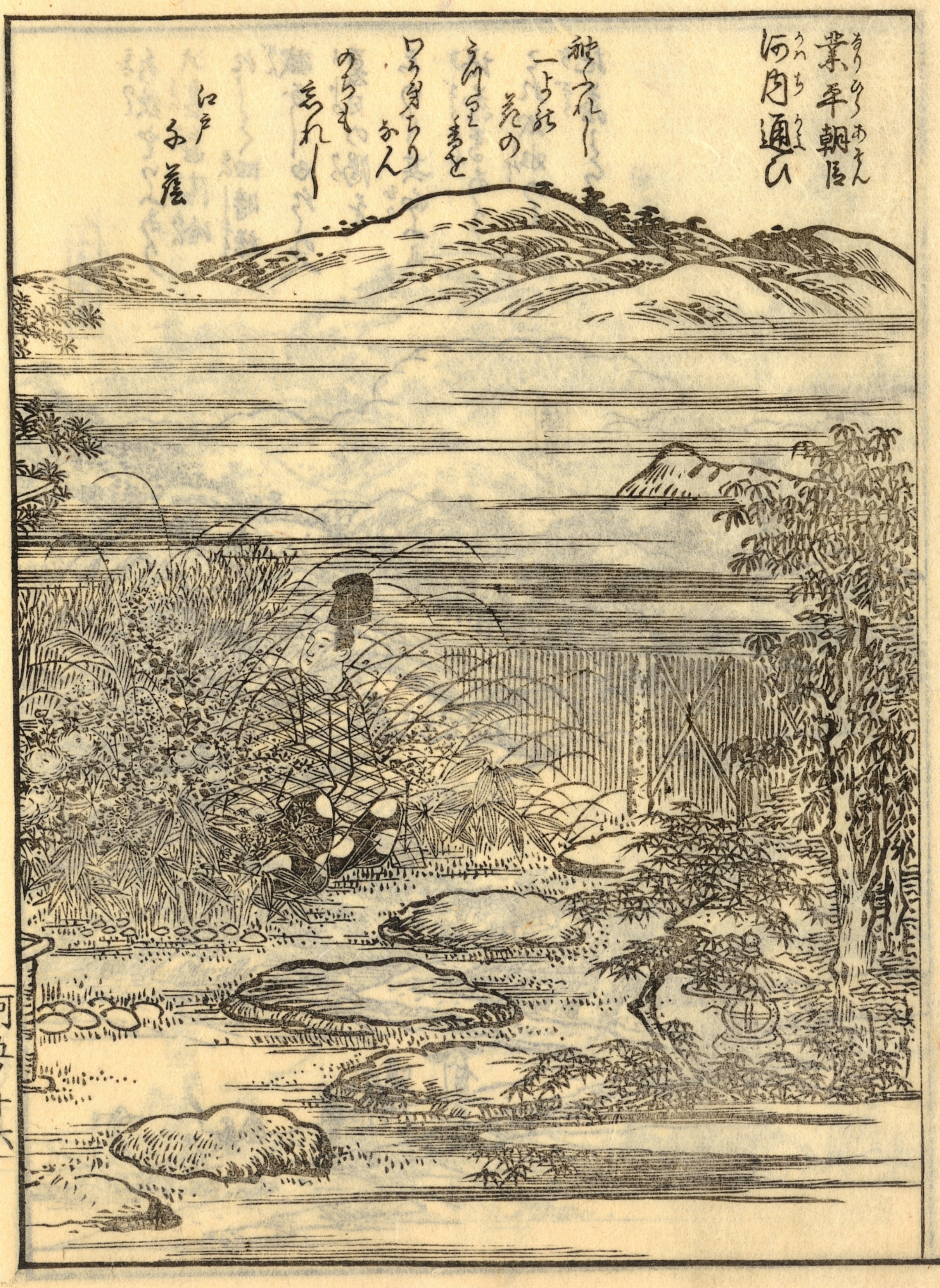
十三峠


衣掛岩
ふえ吹雲
恋の水

水飲堂にあり
此霊泉清冷
にして四時増
減なし往来の人
夏日の渇を
しのぐ其向ふに
地蔵堂あり
これを水のミ
地蔵といふ







業平朝臣（ありひらあそん）
河内通ひ（かうちかよひ）

契られし
一よの花の
あかつきを
わかれちりなん
のちも忘れし

江戸 千蔭

笛吹松 十三街道の小池の上の堤にあり在中将河内がよひのころ此松の本に[illegible]笛を吹すさみし古跡としてかの女に逢しとぞ

衣懸岩 笛吹松の傍にあり在中将河内かよひのころ道芝の露袖袂にぬれ〳〵しほたるゝをぬぎて此岩にかけて干かしより此名をよぶ又其衣紅梅染の色になん有るさるによつて紅梅岩ともいひ伝へり

別の水 神立村にあり大和國紀有常がむすめ貞女の操をかたくなれど業平河内がよひ[illegible]かのをんな[illegible]うしろめたくおもひ大和のこなたさまうかゞひゐしさて文のおくに二首の歌を書とゞむるいせ物語にあり在中将此女のもとに[illegible]まれ〳〵に高安の里に来て[illegible]窓よりのぞき[illegible]かのをんな手づから飯かひとりてけこのうつはものにもりけるを見てこゝろうくおもひし[illegible]窓より[illegible]男の[illegible]作りたれどかの女[illegible]業平[illegible]大和の女は貞心をおもひ[illegible]高安のをんな[illegible]此時[illegible]笛吹山[illegible]業平[illegible]嫁入の時[illegible]又高安の里に東の窓を[illegible]いひ伝へ侍る

伊勢物語

かうちの國たかやすのこほりにいきて通ふ所いできにけりさりけれどこのもとの女あしと思へるけしきもなくて出しやりければ男こと心ありてかゝるにやあらんとおもひうたがひてせんざいの中にかくれゐてかうちへいぬるかほにて見れば此女いとようけさうじてうちながめて

風ふけばおきつ白浪たつた山夜半にや君がひとりこゆ覧

古今集よみ人しらず詞書云[illegible]昔大和國なりける人のむすめにある人すみわたりけりこの女親もなく成て家もわろくなりゆくあひだにこの男かうちの國に人をあひしりてかよひつゝかれやうにのみ成行けりさりけれどもつらげなるけしきも見えでかうちへいくごとに男の心のごとくにしつゝ出しやりければあやしと思ひてもしなきまにこと心もやあると疑ひて月の面白かりける夜かうちへいくまねにてせんざいのなかにかくれて見ければ夜ふくるまで琴をかきならしつゝうちなげきてこのうたをよみてねにければこれをきゝてそれより又ほかへもまからず成にけりとなんいひ伝へたり

とよみける歌をきゝてかぎりなくかなしと思ひてかうちへもいかでなりにけりまれ〳〵かのたかやすにきて見ればはじめこそ心

にくも浅からねど今ハうちとけて手づからいゐかひとりてけこのうつはものに

もりけるを見て心うがりていかずなりにけりさりければかの女大和の方を見やりて

君があたり見つゝを居らむ伊駒山雲なかくしそ雨はふるとも

といひて見いだすにからうじてやまと人こむといへりよろこびてまつに

たび〱すぎぬれば

君こむといひし夜ごとにすぎぬればたのまぬものゝこひつゝぞふる

といひけれどをとこすまずなりにけり（法師玄旨の闕疑抄曰此段を紀有常が女業平より貞女の形をあらハさん為とぞ云く）

伊勢物語の注書古来より多し所謂闕疑抄。初冠。盤斎抄。愚見抄。秘訣抄。拾穂抄。等あまたあるに業平自ら書給ふものに伊勢の御書加へて古れ許をとる故か人又其儘にも出して某郎の物語かゝし七条后温子にまゐらするといふ説多し又賀茂真淵が説にも業平の自ら書るも非し又伊勢御の補遺しならんともかく識の古人文筆をみやび居るにしるき郎もしらるゝものなり其證とは其時代高貴の人乃名をあらはしたる所多し業平伊勢の筆に仍あらざる事顯号を僻事なり好色の事をおほく書しるしたるより卑下して僻物語といふて事古きに多しとさへいふており伊勢人と僻といふに事古きに多し勢語古意に詳なり

花岡山 神立村にあり此地慶長中の戦場なり南方軍記に詳なり

御祖神社 大窪村にあり延喜式出三代實録云貞観二年十一月授正五位下此所の生土神なり

鴨神社 大竹村にあり此所の生土神なり鴨恭といふ延喜式出

樂音寺 樂音寺村にありむかしは佛刹巌窟ありて年久しく頽廃して今茅葺堂をのこして此村の名となれり

春日戸社坐御子神社 延喜式神名帳河内國高安郡の部下に出る又三代実録云貞観元年正月授従五位上

今弦坐所さだかならず

河内郡 東は和州平群郡の界を限り西は若江郡の界を限り南は高安郡の界を限り北は讃良郡の界を限る

伊駒山 讃良郡の東にあり和州に跨る大和名所図会にも出せり山嶺南に長し岩勢寛にして嶮しめつに岩石之檀為し比藤原にして常に風凜し京師より南方に見ゆる峯の麓さゝれより大坂より東にあたりて中に暗峠あり傳云和銅五年正月河内國高安の烽火を廢して高見の烽を置と續日本紀に見えたり高見は沛村の山にあり万葉集に往馬山の飛火といへる此所なり

後拾遺

我宿の梢夏になる時は生駒の山ぞ見えずなりけり　能因法師

同

わたのべや大江の岸にやどりして雲井に見ゆる生駒山かな　良暹法師